

『現代若者研究』メルマガ版

【第9回(最終回):若者の“これから”について考える】

2022年4月



『現代若者研究』メルマガ版の試み

ハイライフ研究所「現代若者研究」メルマガ版、いよいよ最終回です。

公益財団法人ハイライフ研究所では、2019年度に大学生を対象に研究を行い、引き続き2020年度に20代社会人を対象に研究をおこなってまいりました。その詳細は、2冊の報告書としてすでに公開しております。

しかし、私たちハイライフ研究所の「若者」に対する関心は尽きることを知らず、2021年度はメルマガの形で研究を深めまいりました。(メルマガ版についての、私たちの心がけは以下の通り)

メルマガ版での試み その一

過去に発表した報告書で伝えきれていない部分を伝えていく。

メルマガ版での試み その二

若者に関して、新たに沸き起こる興味を紐解いていく。

メルマガ版での試み その三

読みやすく、楽しく、面白く、伝えていく。

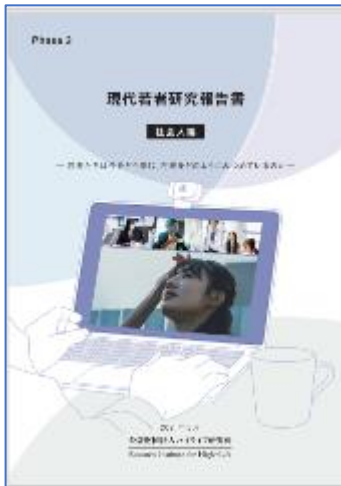
そして、2021年度メルマガ版も今号をもちまして最終回となります。

1年間のご購読、誠にありがとうございました。

なお、内容にご興味をお持ちになった方は、是非とも報告書本体もご参照ください。

※[ハイライフ研究所ホームページ](#)にてご覧いただけます。

(下記報告書の表紙をクリックしていただくと、各報告書 pdf. にジャンプいたします)



第9回(最終回)のテーマは、 若者の“これから”について考える

メルマガ1号で、
若者(大学生～20代社会人)の特徴を
“気持ちの熱さ”より、『心地よさ重視』と括った。

メルマガ最終号の今回は、
2021年12月に実施したWeb定量調査を材料として
若者のメンタリティを深堀してみた。

尚、若者として対象者を20代～30代社会人に広げた。
分析のプロセスで、年代間、男女間の違いも見ていく。

使用データ

【Web定量調査】

■手法:調査会社のパネルを利用したWEB調査

■対象者条件:

・20～39才 男女

・社会人 ※職種問わず、フルタイムで働いている人／農林・漁業なども含む／パート・アルバイト含まず

・全国エリア

■調査数:合計2064S

男性×20～24才 258S／男性×25～29才 258S／男性×30～34才 258S／男性×35～39才 258S

女性×20～24才 258S／女性×25～29才 258S／女性×30～34才 258S／女性×35～39才 258S

■実査時期:2021年12月17日～12月20日

※メルマガ5号～7号のインタビューから一部引用

“自分の将来への不安”と“自分の在り方への自信のなさ”がベース。
 新しいことや面白いことにも目が向いている男性、自己肯定感が低い女性、。

「自己意識」について聞いてみた。

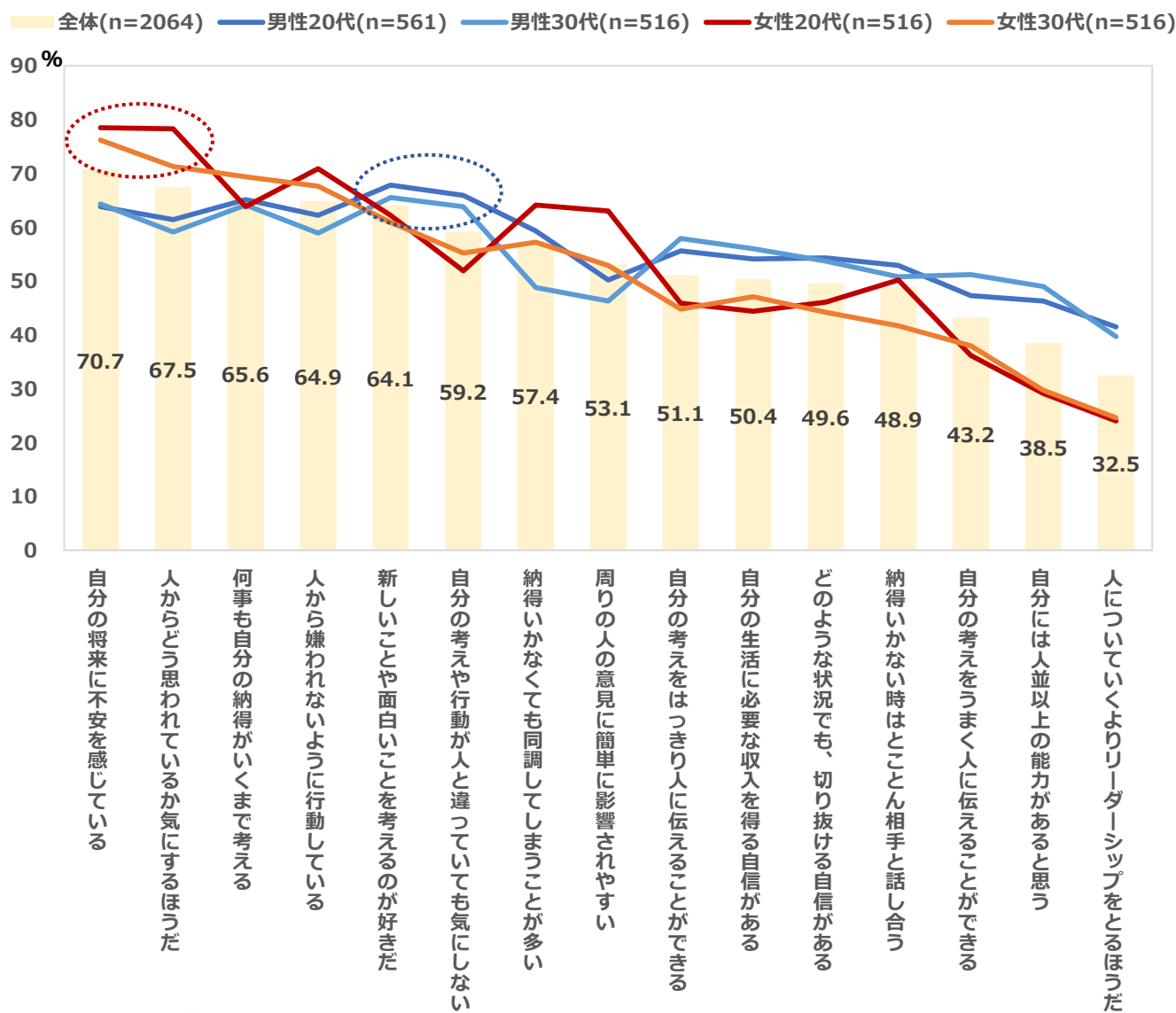
全体では、「自分の将来に不安を感じている」が最も高く、次いで「人からどう思われているか気にするほうだ」となっている。“自分の将来への不安”と“自分の在り方への自信のなさ”が根本にある。

女性は、「自分の将来に不安を感じている」「人からどう思われているか気にするほうだ」の上位2項目の他、「人から嫌われないようにしている」で、男性より高くなっている。特に、女性20代で高くなっており、女性20代は、「納得いかなくても同調してしまうことが多い」「周りの人の意見に簡単に影響されやすい」でも他層を上回っている。女性は男性に比べ、将来不安が強く、周りの目を意識していることがうかがえる。

男性だけに限ってみると、「新しいことや面白いことを考えるのが好きだ」「自分の考えや行動が人と違っていても気にしない」が上位2項目となっている。また、男性は、「自分の考えをはっきり伝えることができる」「自分の生活に必要な収入を得る自信がある」などで女性を大きく上回っており、女性に比べ、自分に自信や肯定感をもっていることがうかがえる。

Q. 次にあげる各項目は、あなたの考えや意識・行動にどの程度あてはまりますか。（4段階で聴取）

※TOP2BOX（「あてはまる」「ややあてはまる」のスコア）



“仕事よりプライベート重視”が基本。同時に、“面白い仕事がしたい”と思っている。
 女性は男性に比べ、前向きさが低調で、承認欲求が強い。

「仕事に対する意識・実態」について聞いてみた。

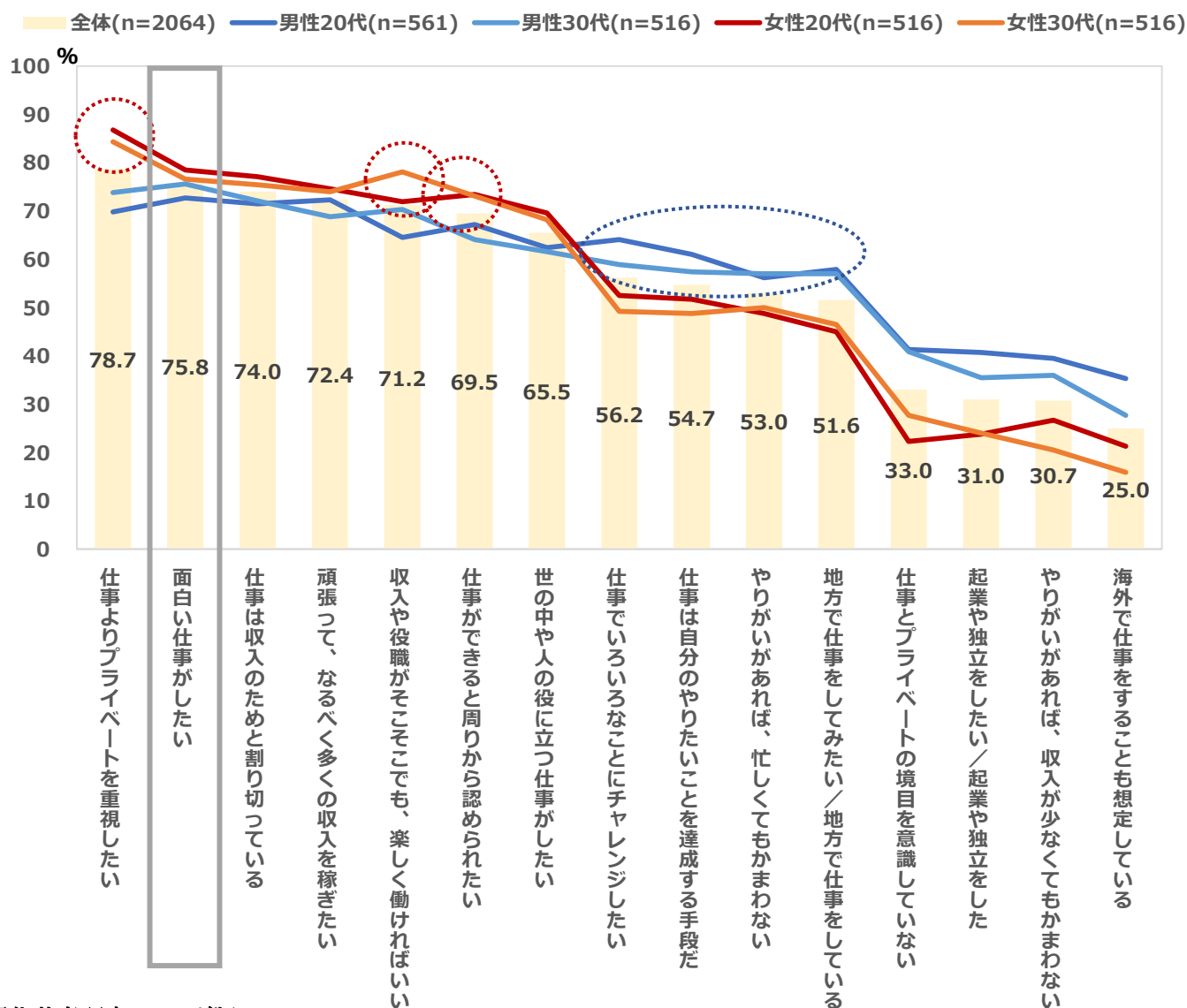
全体では、「仕事よりプライベートを重視したい」が最も高く、「面白い仕事がしたい」「仕事は収入のためと割り切っている」と続いている。「仕事よりプライベート重視」がこれからの時代の“当たり前”になっていくものと思われる。また、「面白い仕事がしたい」という気持ちと「仕事を割り切る」という気持ちが拮抗している。

女性は、「仕事よりプライベートを重視したい」「収入や役職がそこそこでも、楽しく働ければいい」「仕事ができる」と周りから認められたい」などで、男性より高くなっている。仕事はそこそこでいいとする一方で、仕事で周りから認められたいと思っている。

男性は、女性に比べて、「仕事でいろいろなことにチャレンジしたい」「仕事は自分のやりたいことを達成する手段だ」「地方で仕事をしてみたい／している」「海外で仕事をする 것도想定している」などで高くなっている。男性のほうが、女性に比べて、仕事にして前向き様子がうかがえる。

Q. あなたは、どのような気持ちや態度で仕事にのぞんでいますか。（4段階で聴取）

※TOP2BOX（「あてはまる」「ややあてはまる」のスコア）



“会社”より、“自分の能力やスキルに頼る”時代と捉えている。

希望をもって仕事に向き合う男性20代、一方で、無難に働ければいい女性。

別の視点で「仕事に対する意識・実態」について聞いてみた。

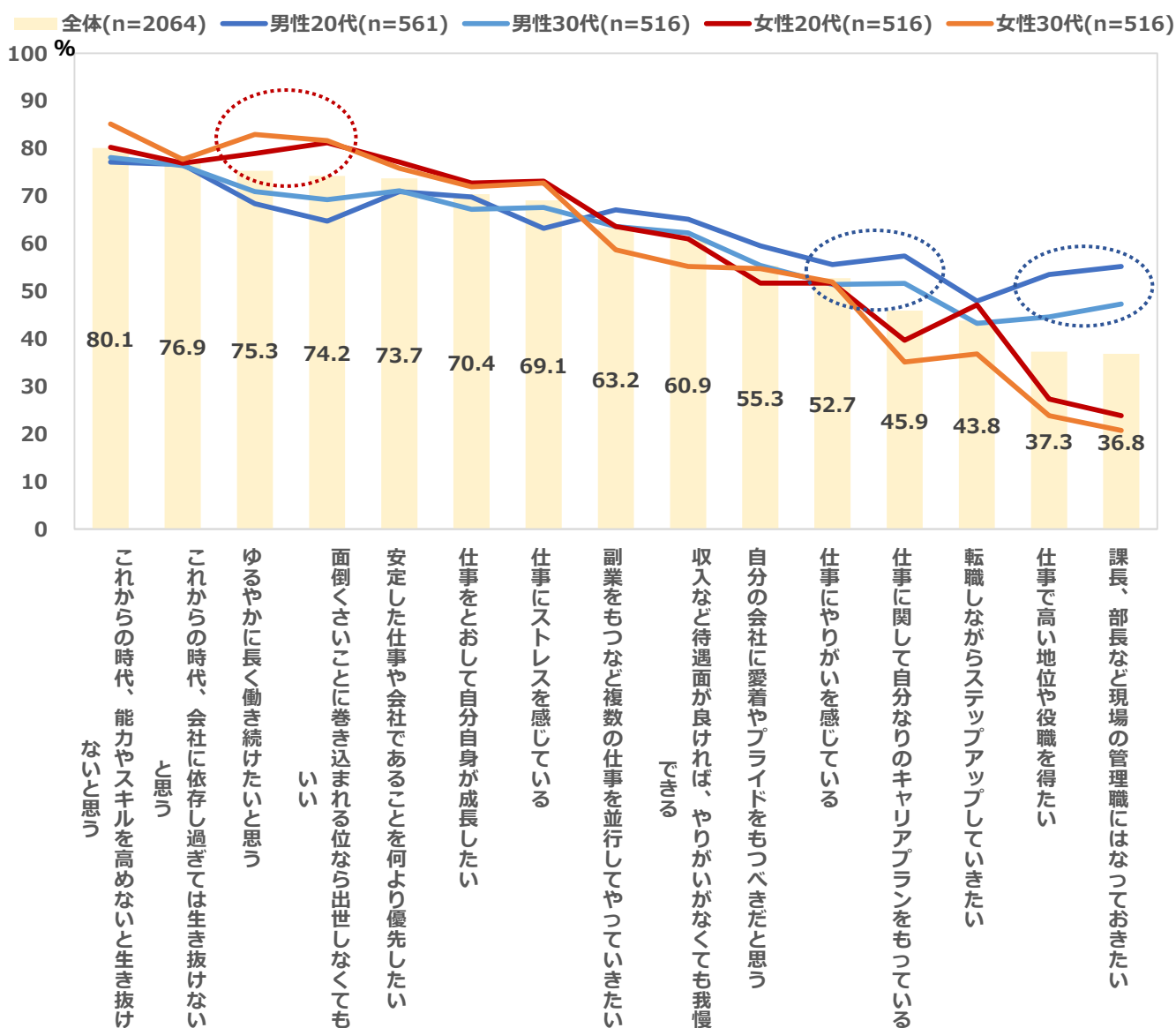
全体では、「これからの時代、能力やスキルを高めないと生き抜けないと思う」「これからの時代、会社に依存し過ぎては生き抜けないと思う」「ゆるやかに長く働きたいと思う」などが上位に並んでいる。下位は「仕事で高い地位や役職を得たい」「課長、部長など現場の管理職にはなっておきたい」となっている。

女性は、「ゆるやかに長く働きたい」「面倒くさいことに巻き込まれる位なら出世しなくてもいい」で、男性を大きく上回っている。また、「仕事で高い地位や役職を得たい」「課長、部長など現場の管理職にはなっておきたい」では、男性を大きく下回っている。女性は無難に働き続けられればいいという気持ちが強いことがうかがえる。

男性の中でも、男性20代は「仕事にやりがいを感じている」「仕事に関して自分なりのキャリアプランを持っている」「仕事で高い地位や役職を得たい」「課長、部長など現場の管理職にはなっておきたい」で、女性を大きく上回っている。

Q. あなたは、どのような気持ちや態度で仕事にのぞんでいますか。（4段階で聴取）

※TOP2BOX（「あてはまる」「ややあてはまる」のスコア）



“安定した豊かな暮らし”とともに、“人の役に立つこと”を目指す。

女性のほうが安定志向が強く、一方で、男性20代は“攻め”の姿勢が見られる。

「人生観・生活意識」について聞いてみた。

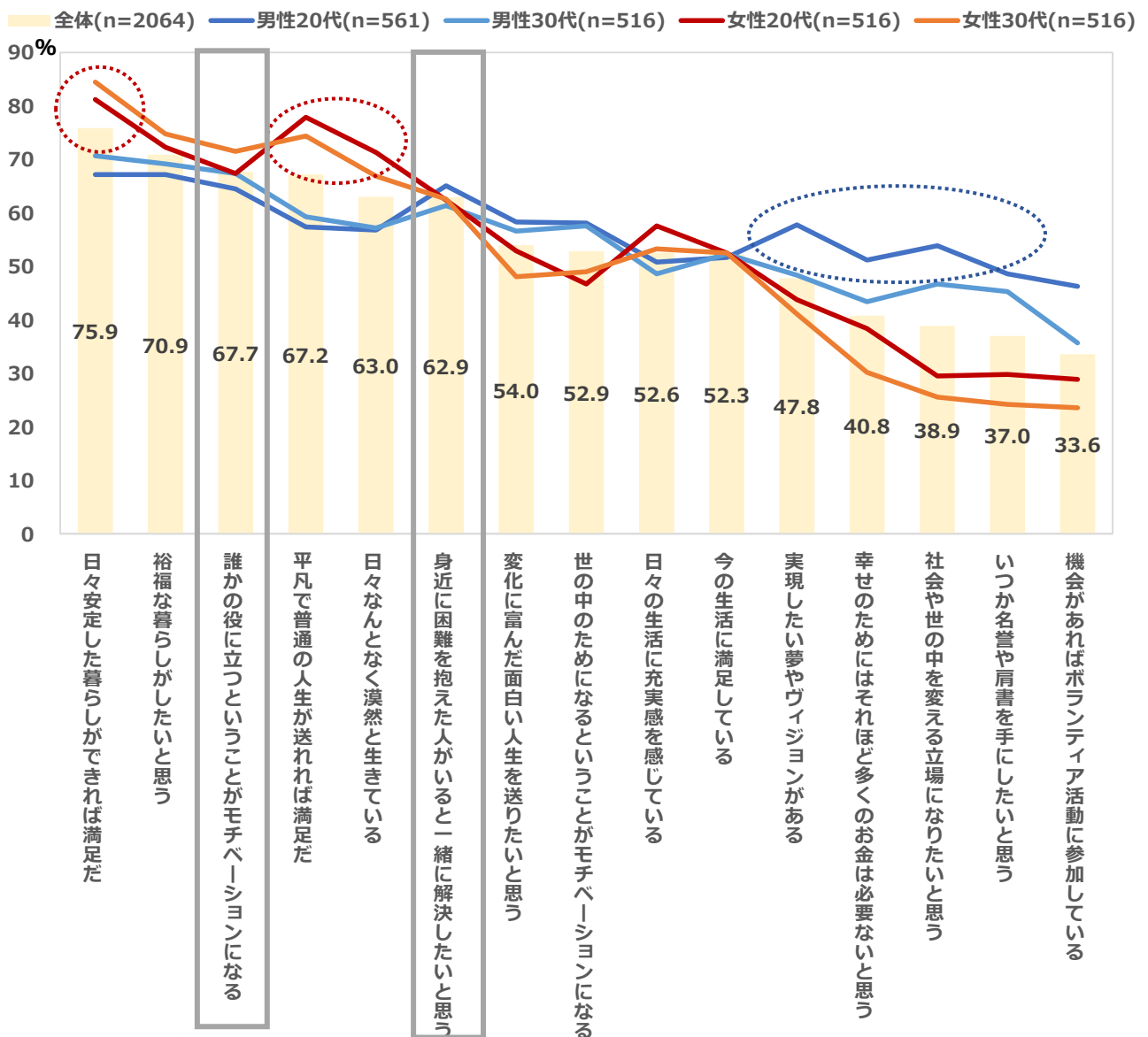
全体では、「日々安定した暮らしができれば満足だ」が最も高く、次いで「裕福な暮らしがしたい」となっている。また、3位に「誰かの役に立つということがモチベーションになる」があがってきており、「身近に困難を抱えた人がいると一緒に解決したいと思う」も上位となっている。

女性は、「平凡で普通の人生が送れば満足だ」「日々なんとなく漠然と生きている」で、男性を大きく上回っている。また、「社会や世の中を変える立場になりたいと思う」「いつか名誉や肩書を手にしたいと思う」では、男性を大きく下回っている。

男性20代は、「実現したい夢やヴィジョンがある」「幸せのためにはそれほど多くのお金は必要ないと思う」「社会や世の中を変える立場になりたいと思う」「いつか名誉や肩書を手にしたいと思う」で、女性を、また、男性30代をも上回っている。男性20代は、お金へのこだわりが弱く、“夢やヴィジョン”“社会や世の中”へのこだわりが強いことがうかがえる。

Q. 次にあげる各項目は、あなたの考えや意識・行動にどの程度あてはまりますか。（4段階で聴取）

※TOP2BOX（「あてはまる」「ややあてはまる」のスコア）



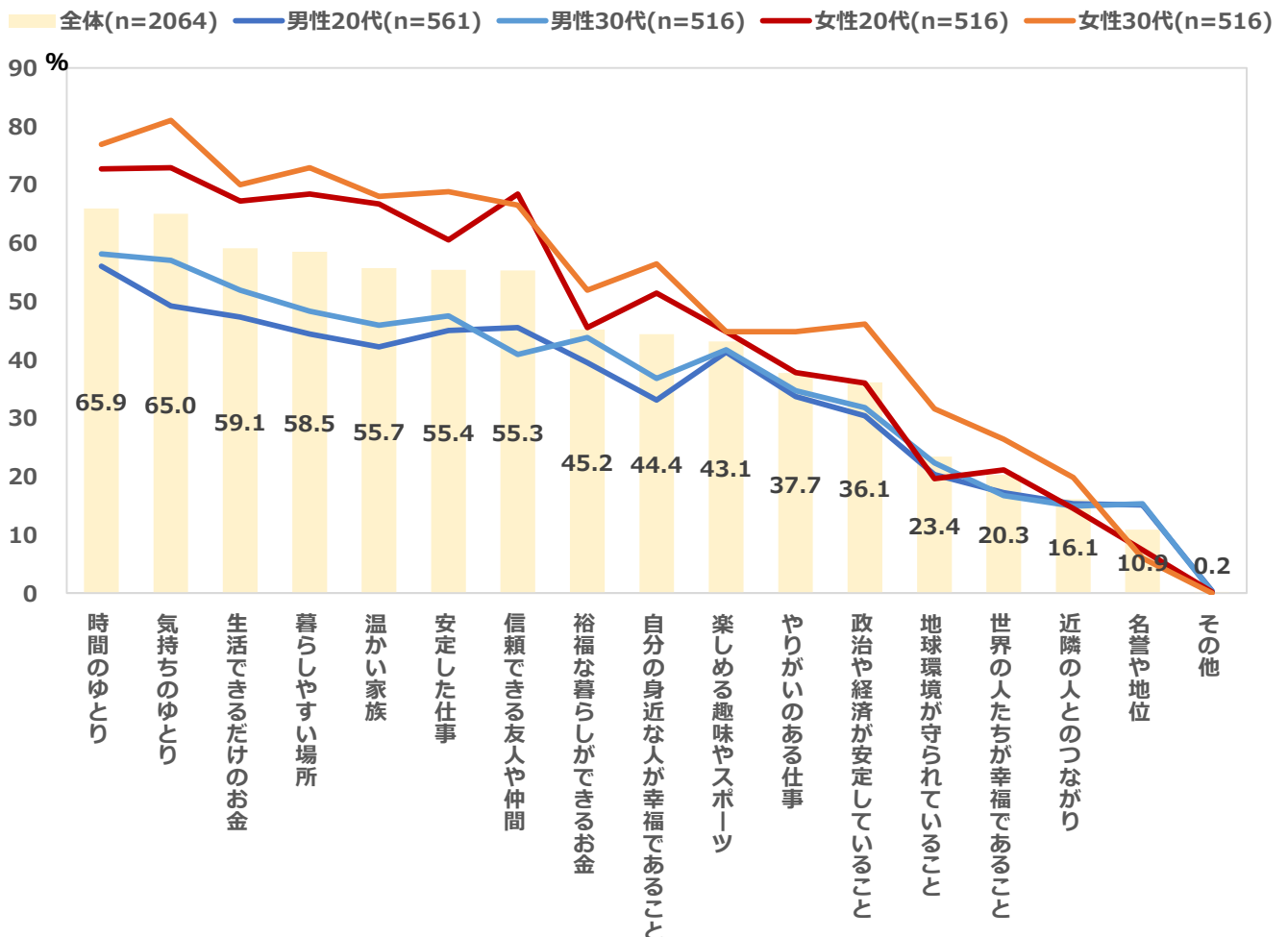
何より“時間のゆとり”“気持ちのゆとり”が幸福の条件。
そして、“生活できるだけのお金”があれば十分。

「幸福になるために必要なこと」を聞いてみた。

全体では、「時間のゆとり」「気持ちのゆとり」が上位に並ぶ。次いで、「生活できるだけのお金」「暮らしやすい場所」となっている。「楽しめる趣味やスポーツ」「やりがいのある仕事」などアクティブな項目は下位にとどまり、ゆったりと緩やかな状態を幸福と捉えている。

女性は、「時間のゆとり」「気持ちのゆとり」「生活できるだけのお金」など上位項目で、男性を大きく上回る。その他多くの項目でも、女性は男性を大きく上回る。女性、特に女性30代は、一般的にスコアが高く、幸せになるために求めることが多いことが確認できる。

Q. あなたが幸福になるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(MA)



女性たちは、結婚後も仕事を続けるのを当たり前と受け止めている。
 だが、望むような形で家庭と仕事の両立ができるとは感じていない。

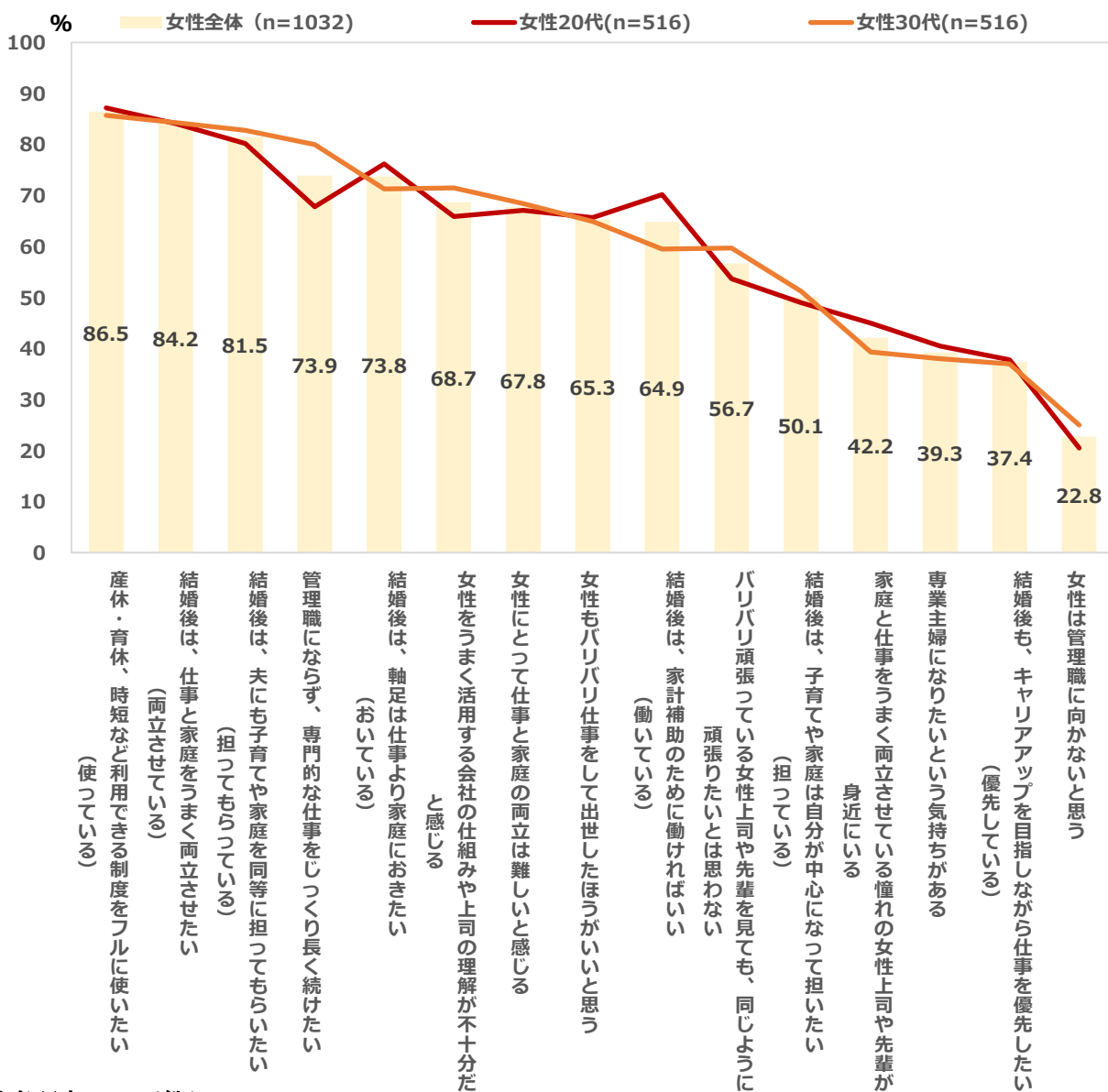
「女性の働き方や家庭のあり方」について、女性に聞いてみた。

「産休・育休、時短など利用できる制度をフルに使いたい(使っている)」「結婚後は、仕事と家庭をうまく両立させたい(両立させている)」「結婚後は、夫にも子育てや家庭を同等に担ってもらいたい(担ってもらっている)」が上位に並んでいる。

次いで、「管理職にならず、専門的な仕事をじっくり長く続けたい」「結婚後は、軸足は仕事より家庭におきたい(おいている)」「女性をうまく活用する会社の仕組みや上司の理解が不十分だと感じる」「女性にとって仕事と家庭の両立は難しいと感じる」が並ぶ。

女性たちは、結婚後も仕事を続ける時代だと感じているが、軸足は家庭におきながら、第一線からは引いた位置で仕事をしようと考えている様子。だが、彼女たちはそれに満足しているわけではなく、会社の仕組みや上司の理解不足にストレスを感じていることがうかがえる。

Q. 女性の働き方や家庭のあり方についてお伺いします。(「はい」「いいえ」で聴取)



自分を受け入れてくれる人がいることが、居心地の良い第一条件。

=信頼できる/認めてくれる

女性はその傾向が強い一方で、男性は時代を引っ張る人を望んでいる。

「居心地の良い場所にてほしい人」について聞いてみた。

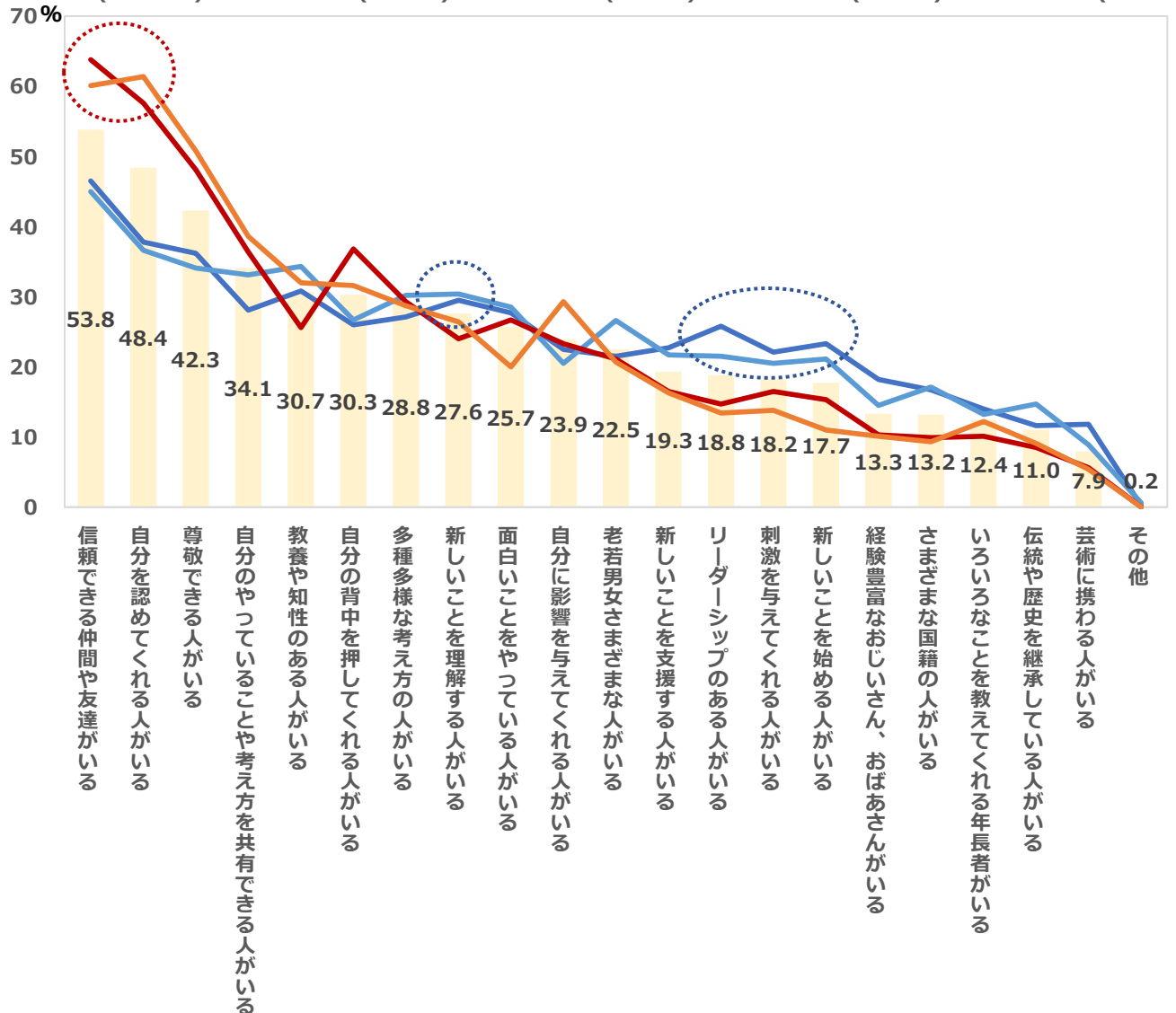
全体では、「信頼できる仲間や友達」が最も高く、次いで「自分を認めてくれる人」となっている。

女性は、男性に比べて「信頼できる仲間や友達」「自分を認めてくれる人」「尊敬できる人」で際立って高くなっている。また、女性20代は「自分の背中を押してくれる人がいる」で他層に比べ目立って高く、女性30代は「自分に影響を与えてくれる人がいる」で高くなっている。女性は、とにかく自分の存在を受け入れてくれる人がいることを望む気持ちが強い。また、自分の背中を押してくれる、自分に影響を与えてくれるという風に、自分を引っ張ってくれる人がいることを望んでいる。

男性は、上位2項目「信頼できる仲間や友達」「自分を認めてくれる人」で相対的に低い。一方で、男性は「新しいことを理解する人」「リーダーシップのある人」「刺激を与えてくれる人」「新しいことを始める人」で相対的に高く、特に、男性20代で高くなっている。男性は、「時代」を引っ張るような人がいることを望んでいる。

Q. あなたがさまざまな活動をしたり、暮らしたりするのに、居心地の良い場所にはどのような人がいればいいと思いますか。あてはまるもの上位5つをお選びください。

全体(n=2064) 男性20代(n=561) 男性30代(n=516) 女性20代(n=516) 女性30代(n=516)



【全体傾向】

20代～30代社会人においても
『心地よさ重視』が浮かび上がる

- 「日々安定した暮らしができれば満足」だと考える。
- 幸福になるために必要なことは「時間のゆとり」「気持ちのゆとり」。「生活できるだけのお金」があればいいとする。



同時に『前向きな姿勢』も浮かび上がる
面白い仕事がしたい！ 誰かの役に立ちたい！

- 「仕事よりプライベートを重視したい」と「面白い仕事がしたい」が両立している。
⇒彼らにとってプライベートを重視するのは当たり前のこと。だからといって仕事を諦めているわけではなく、面白い仕事がしたいという気持ちもあるのだ。
- 「日々安定した暮らしができれば満足」としながら、「誰かの役に立つということがモチベーションになる」
⇒自分の安定した生活を守るだけでなく、人や社会に役立ちたいという意向をもっている。



かつてのような、一直線でアツい上昇志向とは異なった
新たな文脈での『前向きさ』の兆し

～一つの価値観に囚われず多様な、そして、自分の生活にも軸足がある～

面白いことができるなら、役職にはこだわらない。自分が頑張りたいと思うことだけやりたい。(女性20代)

(仕事で)ふるさとと呼べる場所が増えることで、僕の人生の色が豊かになった。(男性20代)

それが、今を生きる若者の特徴のひとつだと言えよう。

【会社という存在】

20代～30代社会人は
頼れるのは、“会社”ではなく“自分”だと考える

- 「これからの時代、能力やスキルを高めないと生き抜けないと思う」「これからの時代、会社に依存し過ぎては生き抜けないと思う」とする。
- 一方で、「仕事で高い地位や役職を得たい」「課長、部長など現場の管理職にはなっておきたい」と思っていない。⇒ひとつの会社で偉くなることでは切り抜けられないと思っている。



会社への帰属意識は過去のモノ

彼らと会社との距離感はクール(冷静)

～会社に属していれば何とかなる時代ではないことを知っている～

【男性20代の可能性】

安定志向がベースにありながらも
チャレンジや変化を志向する男性20代

- 男性20代は、「仕事でいろいろなことにチャレンジしたいと思う」で、女性だけでなく、男性30代を上回る。
- 男性20代は、「実現したい夢やビジョンがある」「社会や世の中を変える立場になりたいと思う」で、女性とともに男性30代を大きく上回る。「日々安定した暮らしができれば満足」はトップスコアではあるものの、女性を大きく下回る。



安定を目指すばかりではない

時代を切り拓く意欲をもつ20代男性

～夢やビジョンをもっている、攻めの気持ちをもっている～

【女性20代～30代の抱える困難さ】

女性20代～30代は 将来不安が強く、切り抜ける自信がもてない

- 彼女たちは、「自分の将来に不安を感じて」おり、「人からどう思われているか気にする」。
⇒自分の在り方に自信がもてない。
また、「自分には人並以上の能力がある」と感じられない。
- 「平凡で普通の人生が送れば満足」で、「日々なんとなく漠然と生きている」とし、目指す将来が設定しにくい様子。
- 「仕事と家庭を両立させたい(両立させている)」とするものの、「結婚後は、軸足は仕事より家庭におきたい(おいている)」とし、家庭という負担を担わざるを得ないと考えている。

新しいことを知り、携
わることで、自分の幅
を広げることが楽しい。
(女性30代)

企画を考える楽しさ、
周りから認められる
楽しさ。仕事にハマっ
ている。(女性30代)

ポテンシャルのある女性たち、だが、

彼女たちが歩きやすい道は開けていない

～ライフステージの変わり目にある彼女たちの選択は社会への影響度が大きいのに～

【若者にとって自分の居場所にいて欲しい人】

自分を受け入れてくれる人

- 「信頼できる仲間や友達がいる」「自分を認めてくれる人がいる」と、居心地が良いと感じる。

加えて、“時代”や“自分”を牽引する人

- 男性は、「新しいことを理解する人」「リーダーシップのある人」「新しいことを始める人」がいると、居心地が良いと感じる。
- 女性は、「尊敬できる人」「自分の背中を押してくれる人」がいると、居心地が良いと感じる。

若者を取り巻く年長者(大人)が

若者を認め/受け入れると、彼らは前に進みやすい

～年長者(大人)が若者の文脈で先ゆく姿を見せれば、彼らも前に進みやすい～

「現代若者研究」メルマガ版まとめ

第1回・第2回

ハイライフ
研究所
「現代若者
研究」
Phase1/
Phase2
のおさらい

20代社会人と大学生を各定量調査で比較
若者としての同世代性を『心地よさ重視』として括った。
仕事に対しても心地よさ重視。だが、心地よさに紐づくきっかけがあれば前向きになる。

20代社会人、合計32人の発言をさらってみた
“世の中”や“年上の人たち”を冷静に見極めて、彼らにとって居心地のいい仕事のスタイルを作りだそうとしている。
EX:「会社に頼り過ぎず、会社と距離を置き、自分に力を蓄えようとする」「闇雲に頑張ったり、長時間労働したりしない」など。

第3回・第4回

仕事に対する
気持ちや
態度で
クラスター
分析

20代男性社会人
『心地よさ重視』の20代社会人を象徴するようなクラスターとして、
〈プライベート重視安定志向型〉(自分の生活中心、仕事は生活の為)が
抽出された。

20代女性社会人
現在の働く女性たちの現状を象徴するようなクラスターとして、
〈前向き安定志向型〉(仕事にやる気があってもキャリアを志向しない)が
抽出された。

第5回・第6回・第7回

時代を牽
引する、
少し尖っ
た若者に
インタ
ビュー

①菊池勇太さん
キーワードは〈他者のためという気持ち〉〈生き抜いてゆけるという自信〉
〈自分が基盤とする地域への思い〉〈お金中心ではない新しい幸福観〉など。

②男性編
〈仕事することの意義を“社会”をベースに考えている〉〈自分のスキルをきっちり確立しようとしている〉〈時代の変わり目であることを認識している〉など。

③女性編
〈パワフルで行動力に溢れている〉〈会社という枠組みに囚われない〉〈自分の成長を強く望んでいる〉〈大義名分より、自分の興味・関心に従う〉など。

第8回

若者について
教育の専門家
に聞く

同志社女子大学名誉教授 上田信行氏
〈ラーニングゴールをもつことの重要性〉〈仕事を好きなコトにすることの重要性〉
〈堂々と自分を貫く女性たちのパワーの重要性〉など。

第9回

若者の
これから
について
考える

20代～30代社会人対象でおこなった定量調査で若者を深堀
『心地よさ重視』が浮かび上がる。だが、新たな文脈での『前向きさ』の兆しが見えてきている。
それはかつてのような一直線でアツイ上昇志向とは一線を画する。

この全9回の「現代若者研究」メルマガ版を通じて、今の若者たちの『前向きさ』を感じていただければ幸いです。
また、“若年女性の抱える困難さ”や“若者を取り巻く大人の在り方”を考えるきっかけなることを願っております。
1年間のご購読、ありがとうございました。